

アズビルのセキュリティ事業



アズビル株式会社 ビルシステムカンパニー 営業本部長 関根 広和

折角の機会ですので、アズビルの取り組んでいるセキュリティ事業を紹介いたします。

アズビルはユーザー様、業者様のお陰様を持ちまして令和元年を以て創業112年を迎える企業です。アズビルの主な事業はアドバンスオートメーション事業、ライフオートメーション事業と、私の所属するビルディングオートメーション事業の3事業です。本稿でご紹介いたしますセキュリティ事業はビルディングオートメーション事業の一環として行われております。

ご存知のように、セキュリティ製品と言いましても様々な領域がありますが、当社の担当するのはアクセスコントロール領域で、所謂、出入管理カードシステムと呼ばれるものです。オフィスビルのご入居者様が自身の事務所へ出入りする際に使用するセキュリティシステムです。セキュリティカードの所持者以外の入場ができないこと、出入場者を特定できることを期待されるシステムです。

当社のアクセスコントロールシステムの特長は大規模統合管理から1ゲートの管理までユーザー様のご希望に応じて安全・安心なシステムを提供できる点にあります。具体的には非接触ICカードリーダー（セキュリティカードを読み込む装置。一般的には出入管理をしたい扉付近に設置されている。図1.参照）の設置数が1台のものから数千台の及ぶものまで対応できるということになります。かつては、建物の通用口に設置されたキーボックスをカードキーで開けて鍵を取り出し、解錠していた時代を思い出すと隔世の感があります。また、オフィスワーカーの皆様にとっては会社勤めに無くてはならないアイテムの1つとなっています。



図1.非接触IC カードリーダー

非接触ICカードリーダーは利便性とマルチアプリケーションを実現。
FeliCa、MIFARE、TypeB、交通系ICカードに対応。
最大10種類のICカードを読み取る。

※FeliCa はソニー株式会社の登録商標です。

※FeliCa はソニー株式会社が開発した非接触IC カードの技術方式です。



高性能タイプ(ランダムテンキー対応)



スリムタイプ

最近のアクセスコントロールシステムの導入目的ですが、『管理業務の効率化』、『働き方改革』が『安全性確保』や『利便性向上』と肩を並べるくらい重要になってきています。コモディティ化しているとは言え、在室状況や不正侵入を正確に把握し不正入室に対して即座な対応を行う機能としての安全性確保は最も重要です。オフィス入場時の共連れでの入場を防止するアンチパスバック機能(図2.参照)、社員管理のみならず来訪者の管理を行うために、ロビーに設置されるセキュリティゲートや部外者侵入防止を行う、エレベータかご内侵入防止機能など考えるすべての出入場を管理することが求められます。カードシステムを活用した安全性確保・管理が充実してくると、一層の利便性向上が求められます。そこで活用が期待されるのが『生体認証システム』となります。指紋、目の虹彩、指静脈や顔認証等の個人を特定できる体の一部を使って個人を特定しようとする機能です。

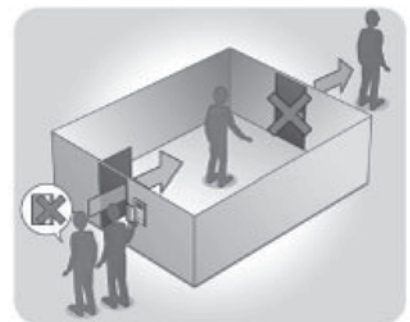


図2.アンチパスバック機能

カードシステムを活用した安全性確保・管理が充実してくると、一層の利便性向上が求められます。そこで活用が期待されるのが『生体認証システム』となります。指紋、目の虹彩、指静脈や顔認証等の個人を特定できる体の一部を使って個人を特定しようとする機能です。

羽田空港や成田空港などの出国・入国審査でもパスポートと顔認証にて判断していることは既にご存知のことと思います。とてもスピーディでストレスが少ないことは多くの皆様がご経験されていると思います。この例からもわかるように、目覚ましく発展する最新技術を活用し、オフィスワーカーの生産性向上を伴うアクセスの利便性向上は一層拍車がかかるでしょう。

一方でアクセスコントロールシステムを用いた『管理業務の効率化』、『働き方改革』で期待される機能ですが、会社の持つ勤怠管理システムとの連携を行い、労務管理を行う機能があります。(図3.参照)これにより、出入場管理が働き方改革につながる機能と一本化され、アクセスカード活用の相対的意味合いを増すことができます。労務管理との関連性が持てるのですから災害時の対応はどうでしょうか。もちろん、アクセスコントロールシステムを用いた災害時の在室者把握や安否確認を迅速に行うことができます。(図4.参照) 災害大国である日本ではBCPの意味合いからも必要な仕様であると思います。また、効率良くオフィスユーティリティ管理を行うこともできます。照明や空調、その他ワークプレイスに存在するすべての対象をアクセスコントロールシステムによって一元管理をすることができます。(図5.参照)



空調照明連動機能

安心・安全の実現に加え、省エネと省人化の進展は、防犯という観点を超越して進展することは間違いありません。



図3.労務管理システム構成

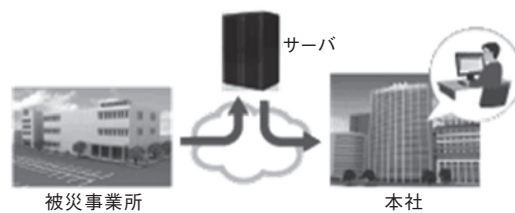


図4.災害時被災地ビルの在場者状況遠隔確認

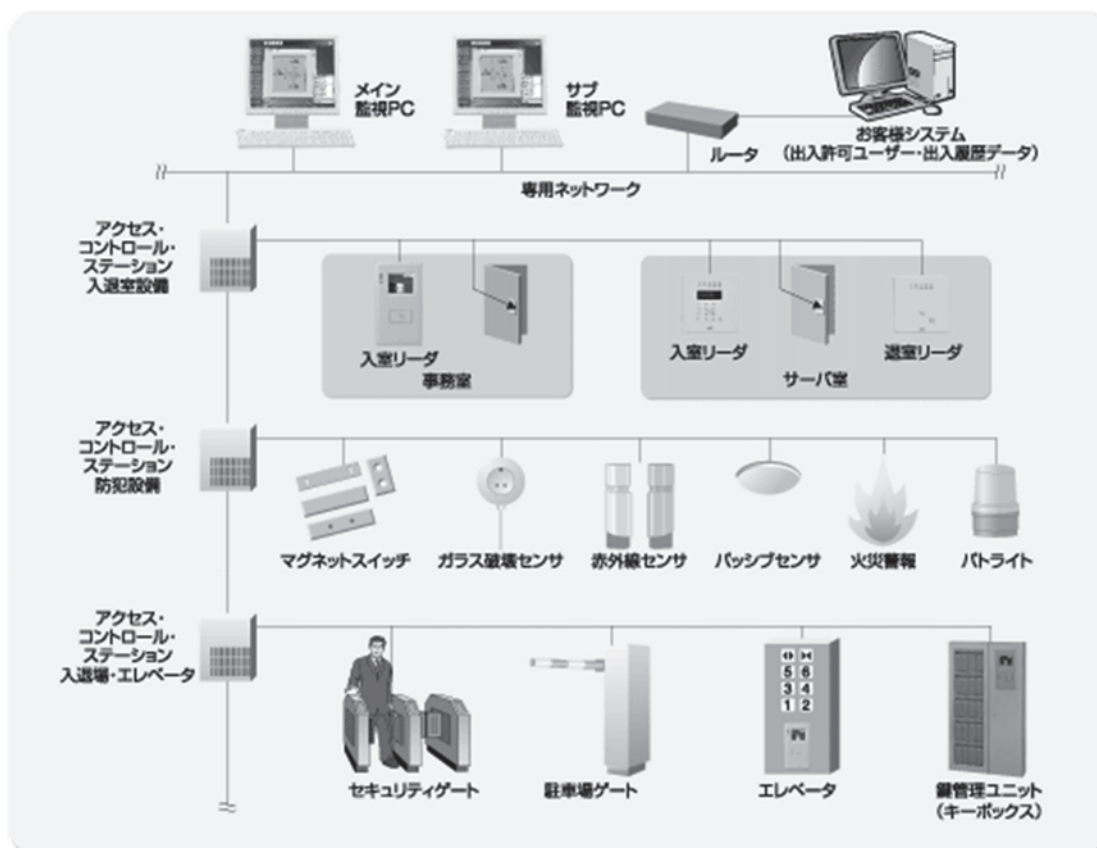


図5.アクセスコントロールシステム システム構成